

生き物を通じた学習プログラムのデザイン



近頃、待機児童問題を発端として保育に関する話題を耳のする機会が増えました。しかし、その内容は大人の話が中心で、乳幼児期の子ども達に必要な「環境」を取り上げた内容はほとんどありません。乳幼児期は、五感を刺激する体験を通じて様々なことを学び、人間形成の基盤が作られる非常に重要な時期であり、保育所や幼稚園ではそのための環境が不可欠です。自然とふれあえる環境もその一つです。

多くの園では、自然体験の一環として動物飼育が行われていますが、アレルギー問題や不適切な飼育管理の問題等から、実際は動物とかわる機会がほとんどないケースも少なくありません。また近年では食農教育の取り組みも注目されていますが、家畜飼育の関連施設へのアクセスの難しさから、そのハードルは高いままです。

そこで私たちは、このハードルを下げるべく、都市部の保育所で実践できるダンゴムシを介した室内での環境教育プログラムや、家畜と身近な物とのつながりについて考える大型仕掛け絵本、リアルなヒツジの人形から衣服について考える学習教材（写真上）など、「生き物を通じた体験型教育プログラム」やそのための学習教材を開発しています。



子どもの五感を刺激する動物との触れ合い